

Love&Leadership

～1 学期始業によせて～

2023・4・7 校長 重枝一郎

福岡女学院大学キャリアセンター・アドバイザーミーティングに参加した時のことです。テーマは「選ばれる大学とキャリア教育」でした。意見交流もあり、その中でも「企業が求めるキャリア教育」については私もいろいろ質問をしました。

アドバイザーの方々は、九州ビジネス協議会、経済産業省、データサイエンス関係、会社代表など今の社会への感度が高い方々だと話を聞いていて思いました。

その中で、当たり前ですが「今求められる人材」という話になりました。そこで出た2つのワードが、1つは「柔軟性」、もう一つが「人たらし要素」でした。

1つ目の「柔軟性」については、「受け入れる力がないと、たし算にならない」ということでした。これは、イノベーションには、人とつながる力が必要であり、それも、異質な人とのつながり・連携によるたし算がとても重要だからということでした。

この考えは、私自身も、これまでもいろんな場面で発信していたことであり、あらためて確認できました。私自身の著書「teacher's teacher2」では、次のように書いています（本校的に一部書き換え）。「今、学校に求められているのは、“異質とつながる力”である。学校と社会、教室と家庭、教科と教科、学校と学校、教師と生徒、生徒と生徒・・・すべて考えてみたら異質であると言える。しかし、異質なもの同士の境界に、新しい教育を開く活力の源がある。だから、宗教行事、はないち、職場体験、社会人講話、先輩との交流会、研修旅行、遠足、面談・・・をしている。やっていることはすべてそうなる。つなぐためには、心理的な壁を越えて近づかなければならない。新しい場所、新しい出会いを求めて扉をたたき、学び合い、認め合う関係をつくらなければならない」。

ところが、2つ目の「人たらし要素」というのはどういうことだろうと思いました。

一般的に「人たらし」とは、「人をたぶらかせる人」「だます人」というネガティブな意味で捉えられています。ところが最近では、「嫌悪感のない人」「バランス感覚がいい人」「コミュニケーションが上手」などポジティブな解釈をされることが多くなったそうです。

経産省の方が多くの会社の人事担当と話す中で、この「人たらし」という才能をとっても評価しているという話でした。人事担当が言うには「人たらしである以上、対面している人を不快な気分させることは皆無です。その才能たるや本能レベルとしか言いようがないと思うときがある。相手からすると、その人から嫌なことをされない、言われないと信用される」。

なるほど、確かに、一緒に仕事をしたくない人は、全くその反対だと思いました。仕事は一人ではやっていけません。だから「人たらし要素」はたし算をつくりやすいということです。

ちょっと「人たらし」を想像してみる・・・

「人たらしはいつも穏やかなので安心して話しやすい」「忙しくても手を止めてあいさつしてくれる」「冗談を言えばいつも朗らかに笑ってくれる」「押しつけがましいところがない」「どう思う？とさりげなく声をかけてくれる」「オープンな性格で接していて気持ちがいい」「心に垣根をつくらない」「弱みも見せてくれる」「失敗を笑い飛ばす快活さがある」・・・これはいつものみなさんの姿だと思いました。

最後に、本年度の私が大切にしたい思いを言葉にします。その言葉は・・・

「Love & Leadership」

- ・互いを尊重し、個性や学習知を活かしあえる
- ・誰もがリーダーシップを発揮できる

みんなのワクワクが、一人一人のワクワクを広げてくれるような学校にしていきたいと思います。

2023年度もいい経験をたくさんしていこう！！
よろしくお願いします